

めぐみイエス・キリスト教会

2020年2月9日(日)第二主日礼拝
週報「通算第493号」



2020年標題聖句

第Iテサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年2月9日 第二主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌265「世人の咎の為に」 p. 416

【交読文】 No.49 イザヤ書第40章 p. 918

【賛美Ⅱ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.17 「父なる神の愛」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書21章15節～19節(2017新約p. 230)

【祈 禱】

【説 教】 《あなたは私を愛していますか》 鈴木竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

●ポイント1. 主イエス様のシモン・ペテロへの預言から

※ルカの福音書22章31節～34節「ルカだけの記述」(新約p.166下段)

22:31 「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。

22:32 しかし、私はあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」

22:34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ、あなたに言っておきます。今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度私を知らないと言います。」

●ポイント2. シモン・ペテロの三度の否定の成就

※ルカの福音書22章54節～62節「大祭司の家の庭で」(新約p.168上段)

- 22:54 彼らはイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。
- 22:55 人々が中庭の真ん中に火をたいて、座り込んでいたので、ペテロも中に交じって腰を下ろした。
- 22:56 すると、ある召使いの女が、明かりの近くに座っているペテロを目にし、じっと見つめて言った。「この人も、イエスと一緒にいました。」
- 22:57 しかし、ペテロはそれを否定して、「いや、私はその人を知らない」と言った。
- 22:58 しばらくして、ほかの男が彼を見て言った。「あなたも彼らの仲間だ。」しかし、ペテロは「いや、違う」と言った。
- 22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が強く主張した。「確かにこの人も彼と一緒にだった。ガリラヤ人だから。」
- 22:60 しかしペテロは、「あなたの言っていることは分からない」と言った。するとすぐ、彼がまだ話しているうちに、鶏が鳴いた。
- 22:61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度私を知らないと言います」と言われた主の言葉を思い出した。
- 22:62 そして、外に出て行って、激しく泣いた。

●ポイント3. 「あなたは私を愛していますか」と言う質問の意味とは？

※エペソ人への手紙4章30節前半「パウロの命令から」(新約p.389下段)

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。

※ヨハネの福音書14章15節・21節「主の言葉から」 (新約p.214下段)

- 14:15 「もし私を愛しているなら、あなたがたは私の戒めを守るはずです。」
- 14:21 「私の戒めを保ち、それを守る人は、私を愛している人です。私を愛している人は私の父に愛され、私もその人を愛し、私自身をその人に現します。」

◎先週のメッセージの概要【朝の食事】

《ヨハネは、イエス様がよみがえって、弟子たちに現わされたのは、これで三度目であると証しています。一回目は、マルコの福音書に書かれており、十一人が食卓に着いている所に現われ、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになられました。そして二回目は、ヨハネによれば、八日後、トマスと弟子たちが一緒にいた時に、イエス様がやって来られ、トマスに「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」と言われたのです。この時も食卓の席であったと思えるのです。この後、主は、トマスにも聖書を解き明かされたのです。

食卓の時こそは、交わりの時であり、また楽しいひと時です。コイノニアとは「交わり」を意味します。ガリラヤ湖畔において、イエス様は、十一弟子たちを、「朝の食事」の交わりの席に招待されたのです。

それでは、なぜこの朝の食事が大切なのでしょうか。イエス様は、弟子たちの要望に応じて、「主の祈り」を教えられたことがあります。その中に『私たちの日ごとの糧を、今日もお与え下さい。』と、言う箇所があります。

日ごとの糧なのです。私たちは肉体を持っています。それゆえお腹は空きますし、喉も渴きます。食べ物も水も、私たちが生きて行く為には、また体を維持して行く為には、無くてはならないものなのです。しかし、それだけではありません。イエス様は、荒野において悪魔の試みを受けられた時に、「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」と言われました。霊的存在である私たちには、「霊の糧」が必要なのです。この時、十一弟子たちは、肉の糧と同時に霊の糧をもいただいたのです。なぜなら、イエス様が共におられたからです。毎朝ごとの主との交わり、すなわちデボーションは必要です。肉体的に、そして霊的に「朝の食事」を取ることは、その日、一日を主の証し人として、力強く生き抜く為には、とても大切なことなのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、通常通り2月16日(日)です。また2月23日(日)の第四礼拝は、お休みします。次回「聖書の学びと祈り会」は、2月12日(水)です。